

【配点】  
 ① 各1点×12  
 ② 各2点×6  
 ③ 1・2・5 各6点×4  
 ④ 各8点×2  
 ⑤ 各4点×9

1

知る

2

「民間伝承」的な創造物

3

摺物業者が、商品として売るために、怪物を創作して、摺物に描いた。

(同意可)

4

ウ

5

ネットの世界と現実世界の境界を越えて、形を少しずつ変えながら、次から次へと創作され、いくつの変えながらい点。

(同意可)

6

エ ↓ ア ↓ カ ↓ ウ ↓ オ ↓ イ

7 自分のくとなる (6・7 各完答)

2

1

近所の中学校の「いい子」である

(同意可)

2

基本的な「いい子」である

(完答・同意可)

3

うちは母親

4

カトリック校へ行ける特権を捨てることとは、階級をわざと下つていくこと、だ。たかざら。 (同意可)

5

息子がいじめられること。 (同意可)

6

1 東洋人 2 白人 3 感情 7 ア 8 エ (6 完答)

3

1

⑥ 従事	① 想定
⑦ 中傷	② 解除
⑧ 支持	③ 有効
⑨ 放置	④ 新規
⑩ 発信	⑤ 関税

2

① 任 ② 失 ③ 争 ④ 敬 ⑤ 絶 ⑥ 続

⑪ じょうせき ⑫ かせん

- ① 「一部：人びとの間では知られた存在」をさしている。「知る人ぞ知る」は、万人に知られているわけではないが、一部の人の間ではよく知られており、認められている」という意味になる。文字通りに考えれば「知っている人は知っている」ということになるが、「知る人」には「その分野に通じている人」というニュアンスがあり、「知名度は低くても実力は認められている」というような意味合いで用いられることが多い。
- ② これは当然、「知っていなければならぬ言葉」として出題しているわけではない。本文に書かれているのだから、通読時に気づいているはずだ、という前提からの出題である。この言葉は、これよりあとにも再度登場しており、『民間伝承』的な創造物、すなわちフォークロレスク」と書かれている。「すなわち」が言いかえであることは明らかだろう。
- ③ 直後の文で、「あるいは」の前後に一つずつ書かれていることに気づかなければならない。そのうえで、問いの要求をしっかりとおさえる。「二つめ」なのだから「あるいは」以降に書かれているものだが、ここには「だが、ここには「だが、どうした」しか書かれていない。そこで、次の段落を見ていくと、「商品として売ることを目的として」と書かれているので、これを入れれば答えになる。
- ④ 筆者は、話題が変わることに、そのことを明記している。そういう論旨の展開をしっかりと見ぬけているかを問う設問である。話題としての「アマビエ」を紹介したあと、「アマビエ・ブームの経緯」を説明している。次に「一連のアマビエ現象」の捉え方について、「フォークロレスク」の観点に注目して説明している部分になる。「こうしたことをふまえると：」の文は、その部分をつたえたとめたもので、「フォークロレスク」に触れているものが答えになる。
- ⑤ 「ネット上でアマビエが次から次へと創作されていく過程は、ミーム・サイクルなのである」という一文でまとめられているので、これを利用すると書きやすいだろう。この文には「ネット」「創作」の二つの言葉もふくまれている。もう一つの「現実」は、「ネットの外の現実世界もミーム・サイクルの場になる」「ネットの世界と現実世界の境界を越えて展開されるミーム・サイクル」に注目するとよい。
- ⑥ エの「それ」は市東氏の「レポート」をさしており、「お札を作成した」の理由がアである。そのあとウの「店のレジの横に設置した」につなげたいが、その前に「入魂式」をしたと考えられる。ウの「設置した」お札がすぐに「はけていた」ことが書かれているのがオ、最後に「数日後」のことが書かれているイが来て、これは次の「お札をもらった人びとは：」にうまくつながる。
- ⑦ 作ったお札が、もらった人びとの間で「お祀り」され、さらに教会やお寺でも本格的に祀られるようになったのである。そういう指示内容を直後で簡潔にまとめて書いている。
- ⑧ ① 「みたいなこと」でまとめられている二つの会話は、筆者が「熱っぽく：近所の中学校のことを話す様子」の例である。すべて、この学校を肯定的に見ていることがわかるだろう。
- ⑨ 息子に、その学校を勧めなかった理由である。「分別のあるしつかりとした人間」「基本的に、『いい子』というのが息子に対する評価である。このあとの「だからAよりもBのほうがよっぽど重要」という内容は、Aが「近所の中学校」、Bがカトリック校の特徴になる。つまり筆者は、息子にとって「近所の中学校」の特徴が魅力的ではないだろうと考えたのである。
- ⑩ 「配偶者」は、筆者の言葉の影響も理由として考えているが、条件は「これより後」である。「：決意は変わらなかった。：実務的判断もあったようだ」という書き方は、「実務的判断も理由の一つである」ということを表している。
- ⑪ 「二つめ」だから、このあとの会話の「第二に：」の部分をもとめればよいことになる。かなりの字数がある部分だが、五十字という条件に合わせるために、三つの文のうち、「反対」と結びつく内容が書かれている三つめの文を中心に書くとよいだろう。
- ⑫ 「わたしの配偶者は一貫して自分の息子を元底辺中学校には通わせたくないと言っていた。：」の段落に書かれていることがらである。これは、さらに「俺は反対だ」と言った理由の一つめとして書かれている。
- ⑬ 「配偶者」の心配を考えれば、「イエロー」と「ホワイト」の意味は明らかだろう。「ホワイト」については、「英国人」とするのはよくない。英国人のすべてが白人であるとはかぎらないからである。「ブルー」は「怒り」か「悲しみ」か断定できないが、どちらにせよ、「イエロー」と「ホワイト」のはざまから生まれてくる「感情」である。
- ⑭ 「全然心配することなかったね」と「配偶者」とともに「安心して」いたのが、ノートを見て変わったのである。
- ⑮ 聞くのがこわい、と考えるのが素直だろう。ただし、アは「予想している」が当てはまらない。また、選択肢には入れなかったが、こわさだけではなく、息子の立場になると聞かれたくないだろうなあとという思いがあることも考えられる。
- ⑯ ①は、「何らかの計画や対策を立てる際に、仮に設定する条件」という意味合いで使われている。②は、「規制などをなくす」という意味でも使うが、ここでは「契約関係を終了させる」という意味になる。③は、「ききめがある」ということ。④は、「新しく何かが始まる」。⑤は、「国境を越えて取引される商品に課せられる税金」のことである。⑥は、「仕事において、何かの業務に取り組むこと」を表す。⑦は、「根拠のない悪口を言って他人の名誉を傷つけること」で、「誹謗中傷」という形でもよく使う。⑧は、「ある意見・主張などに賛成して、その後押しをすること」。「指示」「師事」「私事」などの同音異義語と区別する。⑨は、「そのままにして放っておくこと」。⑩は、「情報などを知らせること」であり、「発進」では意味が通じない。⑪は、「昔から最も良いとされてきた定番のやり方」という意味で、囲碁用語に由来する。⑫は、「大小含めた川全体の総称」である。
- ⑰ ①は「ゆだねる・まかせる」、②は「あやまち・失敗」、③は「きそう・あらそう」、④は「たつとぶ・うやまう」、⑤は「たつ・たつ」、⑥は「つらなる・つづく」という組み合わせである。